

経営学特別講義「CSR 特論」(Corporate Social Responsibility)

担当者：岡本 享二

後期

金曜日

1 時限

[主題・目標・授業案内]

20世紀は科学技術を推進力としたグローバル化のもとに世界経済は大きく発展しました。グローバル化の波は中国、インド、中南米、アフリカへと野火のように広がって、新たに繁栄を謳歌する国々も出現してきました。

繁栄の一方、排ガスで昼でもライトをつけないと先が見えない北京市の例が代表する様に、激しい環境破壊が続いています。発展途上国では自然環境の破壊以外にも、人権問題、児童労働などの社会問題も顕在化しています。

また、20世紀に繁栄を謳歌した先進国でも大きな社会問題に悩まされています。

- ・ 欧州：通貨不安、アフリカ難民の流入による社会不安、失業者(率)の高止まり
- ・ 米国：貧富の差に対する不満爆発、財政難と国力の低下
- ・ 日本：職場の減少、終身雇用の崩壊、自営業/農家の減少、就労困難 2000 万人 (障害者・難病患者・高齢者・受刑者・ニート)、単身所帯の増加

これら社会問題の顕在化と、地球規模での環境破壊が企業の社会的責任(CSR)の起源です。この講座では環境・社会問題の再考にはじまり、企業への社会からの要請を再確認します。その上で企業の CSR に対する取り組みと変遷、さらに GreenWashing の言葉で表わされる「見せかけの CSR」に対する糾弾を試みます。

前期の「企業倫理論」と合わせて受講していただくとさらに効果的です。

[講義内容]

CSR は経済・社会・環境の融合ととらえて「コンプライアンス」「ガバナンス」「リスクマネジメント」「環境対応」に絞られがちでした。この講義では「先進国の消費のあり方」「貧困の撲滅」「生態系・生物多様性の保護」という根本原因にも踏み込みます。また、日米欧の有力企業の具体例を示しながら、企業経営そのものに CSR を組み込む重要性を説いて行きます。

従来、社会問題の解決や企業の経営にあたって何か問題が起こると、その都度個別な対策を積んできました。その結果、一時的に解決できても、その解決策が新たな問題を引き起こし、手続きや仕組みが複雑になって行きがちでした。

CSR も一歩間違えると屋上屋を架すことになりがちです。「複雑化したルール、規制、法律はより単純で統合化された解決策に改める必要がある。また、その時期が来ている」というのが、この講座のもうひとつの狙いでもあります。

そこで、全体最適の手法として「自然資本主義」「バイオミミクリー」「ブルーエコノミー」などの解説を加えながら、抜本的な解決策も提供します。

[スケジュールの概要] (適宜変更します)

- (1) オリエンテーション:「講義概要」と「CSR(企業の社会的責任)とは何か」
- (2) 金融崩壊後の欧米の社会と CSR の動向
- (3) 江戸時代にみる「商人の倫理観」と「環境に配慮した庶民の生活」
- (4) 現代の社会問題と企業(倫理)のあり方
- (5) CSR と「先進国の消費のあり方」「発展途上国の貧困問題」「生態系・生物多様性」
- (6) CSR の基本部分「コンプライアンス」「ガバナンス」「危機管理」「環境対応」
- (7) CSR とホリスティックなマネジメント・システムの重要性
- (8) CSR マネジメント・システムの具体例
- (9) SCM(Supply Chain Management) と国際マネジメント・システム
- (10) CSR は社会の変革点(1)
- (11) CSR は社会の変革点(2)
- (12) 「バイオミクリー」「ネイチャーテクノロジー」のビジネスへの展開
- (13) サステイナビリティとナチュラルキャピタリズム
- (14) 競争優位をもたらす CSR から見たマーケティング戦略
- (15) 社会システムと自然界からの応用

[教科書]

「進化する CSR」	岡本享二著	JIPM ソリューション
「CSR 入門」	岡本享二著	日経文庫
「次世代 CSR と ESD」	岡本享二(共著)	ぎょうせい

[成績評価の方法]

出席日数と授業中の発表・討論、課題リポートを重視して総合的に評価します。

[前提知識]

社会人としての在職経験が望まれるが必須ではありません。

[参考文献]

授業中に適宜紹介します。